

ikeeco

2024
vol.45

“住む人が主役の家づくり”に、もっとファンを！

環境・建築・学びから生まれる

「自然と調和する家づくり」

後世に繋げる建築の在り方

特集

ドイツ・オーストリア・スイス
第26回 エコバウ建築ツアー
2023ツアー紀行 [後編]



東京都の中央部に位置しながら、閑静な住宅街にのどかな田園地帯も広がる国立市。JR谷保駅から徒歩5分のところに、周囲の生き生きとした自然環境に調和した建築が印象的な一帯がある。10年以上、手付かずとなっていた築70年の古民家を含む、この約360坪の敷地が大改修されたのは2009年のこと。元々の地主や職人だけでなく、地域の学生や子どもたちなど住民とも協力して、古民家を囲っていたコンクリート塀を取り払い、敷地と路地をひとつながりとし、畑も開墾。再生された古民家には「谷保の路地に開かれた場所にしたい」という思いから「やぼろじ」と名付けられた。

住まい手の気づきを生む「学び」の場

その「やぼろじ」を拠点に、環境・建築・造園・農業を包括する総合的なコンサルティングサービスを提供するのが、WAKUWORKS株式会社だ。建物周辺の環境分析を含めた建築を提案する同社では、環境の再生、建築、教育（学び）を事業の三本柱に据えている。

元々は設計事務所を主宰していた和久倫也さんの「建築」に、造園家である佐藤俊さんの「庭づくり」が合流。二人の出会いは、同じ環境再生の手法を学び、多くの現場経験を共にした大地の再生という活動であった。二人は他の仲間たちと一緒に全国各地で環境を再生する活動

を約5年間行う。その後、個々の事業に戻ると、和久さんは設計、施工という立場から建築に取り組む中で、さらに周辺環境を含めた総合的な提案をする必要性を感じるように。内装や外装だけをリフォームしても立地条件から湿気の問題がなかなか解消されなかったり、新築の周囲で生き物を見かけなくなったり、植物の元気がなくなったりするのを見て、建築の周囲環境の重要性と改善に課題を持っていた。一方、佐藤さんも建築と環境再生視点の庭づくりを一緒に出来ることに、可能性や広がりを感じていた。設計の段階から、建築と共に庭づくりを行

うことで、空間全体を活かし、人も植物も居心地の良い空間を作り上げることが実現可能であることを見出したという。

さらに「学び」の事業が加わっているのは、現場での「学べる場づくり」を意識しているところが大きい。実際に環境再生の現場では「結の精神」が大切にされており、職人だけで作業するのではなく、その地域の人々や住まい手自身も作業に加わり、お互いに伝え、学び合いながら作業が進められているため、自社においても、環境再生にとどまらず建築も学べる場づくりを



意識している。同社の開くワークショップでは実際に参加者が手を動かし、職人がいなくても、自分たちで家や庭の手入れを出来ることを伝え、施工においても、同社と住まい手の間に「学び」があることを大切にしている。古民家の他にも、畑や森林で行われるワークショップでは、五感を使いながら手と身体を動かす体験と、座学などの知識を組み合わせることで、心地よい暮らしや建物の内と外のつながり、周辺環境を整えることの大切さを、しっかりと伝えられるようにしている。ワークショップでは、参加者自身が「気付く」という視点を持てるようになることを大事にしており、住まい手自身が環境の「今の状態を観察し、考え、少しずつ手を入れていく」というプロセスを学んでいく。建築後も住まい手自身が家周りを大切に、暮らしの中でも何か不都合が出てきても察知でき、いずれは自分たちで家や庭に手を入れることへと結び付いてゆくような流れとなっているのだ。



Tomonari Waku

和久 倫也 代表取締役／一級建築士

1979年東京都日野市に生まれ府中市で育つ。大学にて建築学を修了後、WAKUWORKSを設立。2017年～20年に（一社）大地の再生 結の杜づくり理事を務め、環境保護再生に力を入れる。2022年に（一社）スマート代表理事、WAKUWORKS株式会社を設立。

【講師・イベント】

2023年狛江市水辺の楽校 環境再生ワークショップ
同年 明治大学理工学部 特別講師、他多数



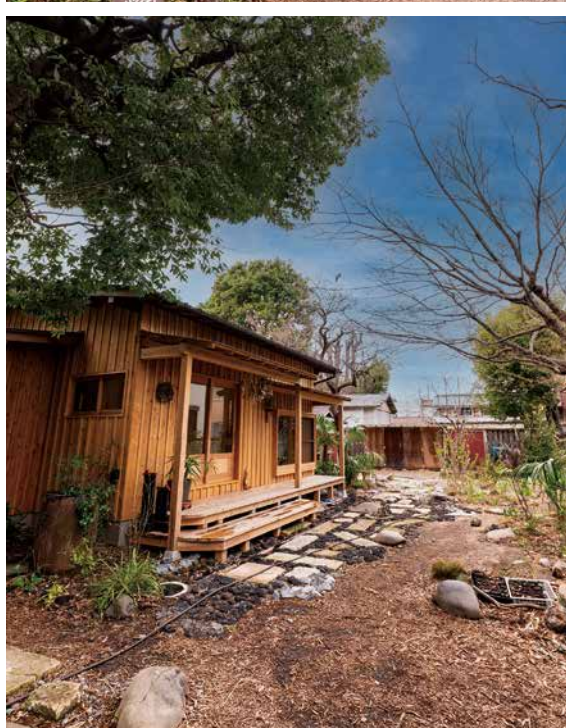
Shun Sato

佐藤 俊 専務取締役／造園家

1975年新潟県村上市に生まれる。大学卒業後、2004年から鎌倉、京都での庭師の修行を経て、庭師植句として活動する。2017年～20年に（一社）大地の再生 結の杜づくり理事を務める。建築と造園の繋がりから造園家としての更なる可能性を見出し2022年よりWAKUWORKS株式会社専務取締役を務める。

【講師・イベント】

2023年グリーンズ「17周年記念green drinks Tokyo 生きるを、耕す。」ゲストスピーカー
2022年長野県軽井沢町・風の草刈WS@風越学園、他多数



右上
道路に面した古民家を
リノベーションした建物。
改修後は WAKUWORKS の
事務所として利用

左と右下
美しい木張り竹まいの外観は、
森のようちえんと
グラフィックデザイナーの
スタジオとして利用



和室の内装壁はシュタイコベースを表して使用した

「地球に還る家づくり」を目指して

昨年、「やぼろじ」では古民家の持つ経年の美しさを感じさせる佇まいと周辺環境はそのまま、さらに建物の内と外とのつながりを感じられるように計画されたりノベーションが行われた。元々「地球環境に負担をかけない」建築をテーマに、パッシブ建築の手法を取り入れ、調湿性能のある建材を用いて室内の温熱環境や空気環境を整えることを大前提としていた。もちろん、地熱を活用すべく、そのベースとなる地中の空気と水の状態を整えることで、15°C程度の地中温度と近似した表層温度となり、冷えすぎず蓄熱しすぎない基礎周りを実現。そして、地域の子育て支援の拠点ともなる空間であることから、断熱材から仕上げに至るまで体に負荷の少ない自然材料を使うことも実践された。また、将来的に建物を取り壊したり改修したりする際に「地球に還る」という点で、和久さんは石膏ボードと気密シートの使用について避けられる方法がないか考えていたところ、シュタイコベースの存在を知ること。厚さ20mmの断熱材でありながら仕上げ材としても使え、気密も取れる万能な木繊維断熱材ボードの採用に至る。リノベーション前は部屋の三方が壁に囲まれており、和久さん曰く「寒くて暑い閉じた箱」だった空間が、温熱環境が安定して風通りの良

い、周辺との豊かな関係性が保てる空間へと変貌した。

壁と天井には、マット状の木繊維断熱材で基礎断熱を行い、その上から付加断熱兼内装仕上げ材としてシュタイコベースを施工。250kg/m³と比重が大きく、20mmの蓄熱層として面で入れたことで、温度ムラが起きにくい室内環境は非常に安定している。また、壁に使われたシュタイコベースについては、現場ですらに仕上げの表情が和らぐよう、大工による丁寧な面取り作業が施されていた。

今回リノベーションされた建物には2部屋有り、「森のようちえん」として使用する部屋では園児と保護者も含め、みんなでレームファルベ粘土塗料をDIY塗装することに。化学物質を含まず作業時の匂いもほとんどない上、隠蔽力の高さから塗りムラもできにくいため、子どもでも簡単にローラーで塗り広げることができたそう。いずれ園児たちが触って汚れたり傷が付いても、建物の利用者で直せるといった実感が生まれたという。

一方で、もう一部屋である和室は、真壁に塗り壁の仕様であった上からシュタイコベースを張り、木繊維ボードである素地をそのまま意匠として現した。量や無垢板などの仕上げ材との相性も良く、和室の用途に合った静かで落ち着いた



幼稚園の内装壁は、シュタイコベースの上からレームファルベ粘土塗料をDIYで塗装した



壁と床の断面の模型。
床下地にもシュタイコベースを利用している

た空間を作り上げている。

また、工事中にはシュタイコならではのエピソードも。現場で出たシュタイコベースの端材は、当初の計画には無かった床の断熱材としても使用されることに。「もしこれが石膏ボードだったら、材料ロスだけで何袋の廃棄物が出ていたのか…」と皆で現場を振り返る。さらに蓄熱や断熱についても石膏ボードにはない高い機能を持つことから、廃棄面以外でもトータルで見たときのメリットは大きいであろう。

人や生き物が集う 建築と環境の交わり

リノベーション後に一冬を越したところだが、利用者は以前の仕様とは一変した空間の居心地の良さを早くも実感している。南側の日射によりじんわり温められた無垢床の下には根太がなく、面で用いられたシュタイコベースと配慮された基礎回りによる緩やかな蓄熱効果が。新設された窓や庭につながる縁側を通して外の環境を取り入れることで、建物の内と外での関係性が豊かになり、園児の活動範囲は一気に広がった。これには、建物に使われている自然素材と庭に広がる植物や自然との違和感が少ない点も寄与しているのであろう。

「建物の周りの元環境を整えることが、すごくエネルギー的にも経済的にも節約できるんですよ。空気と水の循環機能がこの建物下の土の中と周りで広がってくると、植物たちも健全に育ち、植物たちが担っている蒸散作用やかんよう力、風を生み出す力が機能し、生き物がちゃんとそこに健全に住まえるっていう状態が作れるんです。そうすると、そんなにアクティブな設備で室内環境を整える必要がなくなってくるんですよ。あと、窓も開けたくるし、なによりここに居たくなるとか関わりたくなる。自然に人や生き物が集まってくるんですよ。」と、和久さん。

子育て支援だけでなく、地域の人たちでの料理

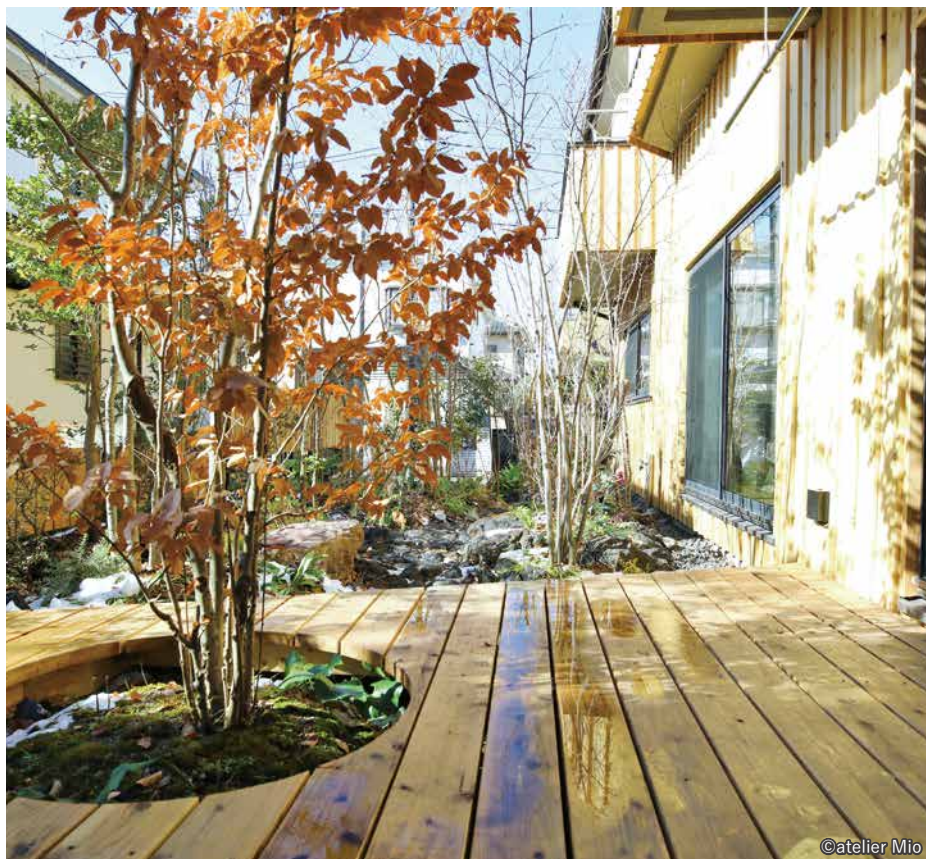
づくりや、生物多様性に関する学びの場としても活用される「やばろじ」。地域に住まう人々のさまざまな相談が持ち込まれてくることで、WAKUWORKSは建物の周囲環境を見つめ直す機会を提供し、日々の暮らしに寄り添う地場企業として一緒に成長している。地域に受け入れられ、現在の事業形態に辿り着くまでに得られた経験から、和久さんと佐藤さんの地域に根差す建築業者としての役割を担っているという手応えは大きい。

和久さんは「高性能な仕様で施主を説得して提案するのではなく、建築以外の視点を持った提案も2、3割混ぜた建物づくりを心がけています。学びという意味でも、その建物に住んだり利用したりする人の身の丈にあった、自分たちでできる範囲で試行錯誤することを大事にしています。」と話す。

最後に和久さんは、今後も中小企業だからできる意思決定から実践までの速いスピード感を持ちながら、WAKUWORKSの仕事を通じて日本の暮らしの中にある伝統や良い要素を次の世代に伝えていきたいと語ってくれた。「やばろじ」で建物と周辺環境を整えてきたように、同様に携わるさまざまな特性や職能を持つ人を繋ぎ、建築業者だからできる人や地域との繋がりをさらに広げていくことだろう。



柔らかな光が差し込むリビングは、
庭と繋がり植栽を眺めることができる



【取材後記】

WAKUWORKSで実践されていることは、シュタイコ木繊維断熱材を取り扱うイケダコーポレーションが、日本においてその広がりをサポートしてきた「バウビオロジー」の学問との共通項も多い。建物を生きた風景の一部だと捉え、その形姿は、その土地の気候や周辺環境からの影響を受けるとする「バウエコロジー」。住まいを第三の皮膚として捉え、心地よさの体験からさまざまな感情を導き出すことを使命とした「バウビオロジー」。日本でも2000年に発行されたドイツのベストセラー『健康な住まいへの道』（ホルガー・ケーニッヒ著）でもたらされた建築の在り方に通ずる、建築する自由と周辺環境の影響への責任について再考する機会となった。

取材：岡田 真樹子 REPLYe/リプライエ

ウッドデッキからは素敵な庭を眺める
ことができる。木々の存在を活かし、
自然に寄り添う住宅のあるべき姿

第 26 回
エコバウ建築ツアー
2023

ツアー紀行
後編



～持続可能な省エネ・

木造建築と自然と調和する建築の旅～

古城のカルクファサードの家。
後ろは魔女裁判のあった塔。

前号の ikeco Vol.44 に引き続き、エコバウ建築ツアー 2023 ツアー紀行の後編をお届けします。前編の3日間（2023年10月30日～11月1日）では、ドイツ・オーストリア・スイスの3国に渡りツアーを続けてきました。後編の3日間（11月2日～4日）は自然豊かな国 スイスをじっくりと視察し、シュタイナー教育・アントロポゾフィーの総本山ゲーテアヌムを見学していきます。持続可能な建築を目指すスイスでは土と木の建築そして、環境負荷を抑えた暮らし方にスポットを当て視察を進めていきます。今回も本ツアーにご参加いただいたアーキテクト工房 Pure 代表取締役 高岡様から寄稿いただいた内容を元にご報告致します。



寄稿／アーキテクト工房 pure 代表取締役
高岡 文紀（たかおか ふみのり）

愛媛県松山市を拠点に「世界基準のパッシブハウス 5つ星の快適を日常に」という強いメッセージで、デザイン×高性能×自然素材、3拍子そろった家づくりを提案する。一般社団法人パッシブハウスジャパン 理事を務め、パッシブハウス認定物件も数多く手掛けている。また、住まうオーガニックを提案する『House de Organic』を主宰するなど、高性能な家づくりの普及活動にも努めており、卓越した工務店経営手法は高性能住宅ビルダーの模範的存在でもある。

第26回 エコバウ建築ツアー2023 スケジュール

日 程	行き先	都 市
10月29日（日） 🇩🇪	出国 到着後 ウェルカムパーティー	Munich市
10月30日（月） 🇩🇪	STEICO本社 プリンツ・オイゲン・パーク STEICO Zell施工現場	Feldkirchen村 Munich市 Dornbirn市
10月31日（火） 🇩🇪	ホルガー・ケーニッヒ氏講演 建築家 ヘルマン・カウフマン氏建築案内 ・修道院施設の改修 ・電力会社ビルIZM ・社会福祉的な木造集合住宅	Munich市 St.Gerold村 Vandans村 Götzis村
11月 1日（水） 🇨🇭	美しいZEH住宅 10世帯のZEB分譲住宅ソーラーパーク+	Eschenz村 Wetzikon市
11月 2日（木） 🇨🇭	HAGA本社 スイス漆喰、土壁利用の住宅・店舗	Rupperswil市 Bremgarten村
11月 3日（金） 🇨🇭	木造会社 シェアホルツバウ ZEB製材所 5階建て木造集合住宅「シェアルーム」	Altbüron村 Malters村
11月 4日（土） 🇨🇭	持続可能な住宅地エルレンマット・オスト地区 ゲーテアヌム訪問	Basel市 Dornach村
11月 5日（日）	帰国	

2023年11月2日（木）4日目



HAGA 本社訪問

スイス漆喰の製造元であるHAGA本社に訪問し、トーマス・ビューラー社長よりHAGA社の歴史などを案内頂いた。会社設立は1953年で当初より自然素材の建材を販売しており、創業当初は社員3～4名（家族経営）から現在の社員は40名規模へ。エコロジカルな住宅の提案として塗り壁以外にアシ・ヨシ・羊毛ウール・コルク・ヘンプ・セルロース・ウッドファイバーなどの断熱材と漆喰や粘土を組み合わせ様々な解決策を提案している。又、販売している製品の成分リストをオープンにしており使用する側が安全性を確認でき安心して使うことができる。5年前までは、漆喰90%：粘土壁10%程度であったが近年は粘土仕上げの市場が増え3割を占めている。背景としてはグレーエネルギーの削減への取り組みで、漆喰は焼成する際にCO₂を排出するが、粘土はそのまま利用できる点が見直されているという。説明の後は建物の中を案内して頂き粘土を使った壁・天井の蓄熱暖房システムや沢山の塗り壁のサンプルを見学した。いつかは“土にかえる”自然な物を使って建物を建てていくことは素晴らしい事である。

HAGA本社視察の後はスタッフのご自宅を見学させて頂いた。木造3階建ての建物の3階にご自宅があり内装はHAGA社の粘土で仕上げられておりシンプルで素敵な造りの内装であった。



- 1 トーマス・ビューラー社長よりHAGA社製品のレクチャーを受ける
- 2 温冷水のホースを埋め込めるパネルと粘土壁仕上げの見本
- 3 土壁に直接温冷水ホースを埋め込んだ粘土壁仕上げの見本
- 4 スイス漆喰や粘土壁の様々な仕上げ方、テクチャーを展示している
- 5 1431年に建てられた建物の改修物件、外壁はカルクファサード仕上げ
- 6 住まい手のHAGA社スタッフから直接案内を受ける
- 7 内装はスイス漆喰カルクウォールや粘土壁仕上げ


スイス漆喰・土壁利用の住宅・店舗の見学

1431年建築のとても古い建物を購入しリフォーム中の物件。1階を事務所、2階と3階を居住スペースとして利用する。家全体が木と石と土でできた呼吸する建物はHAGA社の漆喰と粘土との相性も良く600年近く前の古い梁などは表して仕上げている。住宅の購入価格は1億8千万～2億円で日本の金額差に驚かれるが、この歴史ある建物が漆喰や粘土を使いとても素敵に仕上がっており、これから何十年と長く住み続けていくのなら決して高い買い物ではないのかもしれない。



- ⑧ 300年～400年前に建てられた建物を改修し、賃貸へ利用する
- ⑨ 外壁はスイス漆喰カルクファサード仕上げ
- ⑩⑪ 賃貸リノベーションの内装。既存の雰囲気やそのままの土壁を活かし仕上げられている



2023年11月3日 (金) 5日目 

持続可能な木造建築を追求した木造会社 シェア・ホルツバウ

ツアーも後半に入り5日目は、木造会社シェア・ホルツバウの見学から始まった。ここには設計・製造・製材の3部門が有り140名の従業員が働いている。最初に見学したのはアルトビューロン村にある事務所とパネル工場へ。5代目であるルーカス・シェア氏にスイスの職業訓練制度(マイスター)や会社の概要などの説明を受ける。会社自体も職業訓練制度の資格を持っており業界を盛り上げる為に訓練生を受け入れている。スイスの人気職業ランキングでは大工はベスト20に入る人気職業で16～36歳が多い。また、スキルアップ制度も盛んでエネルギーアドバイザーなどの資格を取得することができ、木造マイスターを取得すれば経営者になることもできる。

会社は設計20名、PC工場20名、現場20名の社員がおりオフィス建築・古民家改修・高層建築などを手掛けている。自社工場で構造をパネル化し、床材・外装材、家具、建具の全てを製造し“未来を開発していくことが大事”と話す。

3Dで設計し加工は2Dで行う。マイクロソフトと共同開発したゴーグルをかけコードをスキャンすると3Dの画像が映り何処の部分に納まるのかが確認でき、熟練者でなくても映し出されたマニュアルに従い組み立てする事ができる。又、加工されたパネルの中にセルロースや木繊維断熱材を機械で吹き込むラインも備えている。

- ⑫ シェア・ホルツバウの工場、倉庫
- ⑬ 5代目 ルーカス・シェア氏よりマイスター制度や企業の取り組みについて説明を受ける
- ⑭ パネル化工場での説明を受ける。構造のパネル化は元より床材、外装材、家具、建具も自社製造する
- ⑮ 3Dゴーグルで熟練者でなくても映し出されるマニュアルに従って部材の組み立てができる

マルタース村の製材所

マルタース村にあるシェア・ホルツパウ社の製材工場を見学。共同組合で管理している民有林(15km圏内)から地域材の原木を運び年間1万m³の木材を利用する。主にモミ・トウヒ・トネリコ・ナラ・ブナなどを製材し床材、外装材、建具などを製造している。エネルギー削減の観点からなるべく天然乾燥させてから人工乾燥を行っており脱炭素の取り組み細かな仕組みで行われている。原木の皮はチップボイラーで燃焼し製材所の暖房や木材乾燥に利用し、余った電力は地域に供給される。製材加工場もしっかりと断熱されておりとても快適な工場空間となっている。日本の製材所は外と同じ様な環境・施設が多いと聞けるが、作業環境自体を見てもスイスの人気職業にランクインするのが頷ける。

- 16 17 シェア・ホルツパウ社のマルタース村製材所を見学
18 原木の皮もチップボイラーで発電し、暖房や木材乾燥利用することでエネルギーの削減に繋げている



5階建て木造集合住宅「シェアルーム」

5年前までシェア・ホルツパウ社長を務めていた4代目ヴァルター・シェア氏により木造集合住宅「シェアルーム」の考えやコンセプトの説明を受ける。“木の天国を作れば皆が変わるだろう、少ない資源で多くの空間を。遊びの気持ちを持ってつくった”と語る。少ない資源とは、空間グリッド&モジュール化(3.5×3.5×3m)を行うことで建築価格は市場価格から2割の削減が可能だという。実際に、地域の平均家賃320CHF(日本円5万5千円)に対し、エネルギー込みで220CHF(3万7千円)であり3割以上の低価格帯となっている。

シェア氏は最後に、“シンプルな構造・多機能を備えたモジュール・持続可能な建物とは、あらゆる暮らし方の変化に対応可能な建物であり、そこにはよりシンプルさを求める探究心が必要である。”と締め括った。説明の後ご自宅の中を見学させて頂いた。最上階の角部屋でとても素晴らしい景色が見えるリビングが目を引く。一戸世帯の中心に換気などの設備関係を集約している。冷暖房は地中熱ヒートポンプを利用して地中より10°Cから27°Cまで温度を上げておりヒートポンプのAPFは7.0。太陽光と蓄電池を設置しネットゼロで資源の分配をし「人×資金×消費=0」を実現する。換気は室内循環型で外気を5%取り入れている。



- 19 「シェアルーム」の窓から見えるスイスのすばらしい風景
20 「シェアルーム」の室内はシンプルで飽きがこず、フレキシブルな空間となる
21 22 シェア・ホルツパウ社の4代目ヴァルター・シェア氏により「シェアハウス」の案内を受ける
23 スイス政府が発行する最高レベルの省エネ基準の認定書



24～27 住民NPO協会 リーザ・ツィーグラール氏による案内。エルレンマツ・オスト地区では、社会的な持続可能性をコンセプトに、世代・所得層・人種・老若男女を混在させることで社会的孤立を防ぎ、連携と安定の意識が高まり争いが起こりにくい社会の実現を目指している

28～33 ゲーテアナム見学。ゲーテの哲学を基本とし、自然は変化しながら発展していくことから建物自体も動きのある形状へ。自然界には直角が存在せず多角形や曲線を用いた建物。「赤=認識、緑=バランス、青=空間、紫=時間とは何か」を表す

エルレンマツ・オスト地区見学

ツアーもいよいよ最終日、住民NPO協会 リーザ・ツィーグラール氏の案内による「エルレンマツ・オスト地区」を見学する。ドイツ国鉄の敷地を再開発、アウトバーンがある側は壁で閉ざされ、中央の大きな公園に向かって開くように様々なタイプの建物が建ち並び、それら全ての建物がミネルギー認証を取得している。500世帯の住民が暮らしており「社会の連帯を強める為に多種多様な層の人たちが暮らし、平和な社会の為にミックスが大事だ。」と説明を受ける。2000W社会の実現の為にエネルギーは自立しており、太陽光発電・地域熱・地中熱ヒートポンプなどを利用し電気と熱は全て自給している。地下駐車場を備えるが自動車の為の駐車場ではなく自転車の為の駐輪場で、車は数台の電気自動車をカーシェアリングで共有する。

リーザ・ツィーグラール氏自宅見学

案内をして頂いたリーザ・ツィーグラール氏の自宅を案内して頂く。アウトバーン側は高い壁で覆われ通路と中庭があり橋を渡って建物にアプローチする。

Dornach村ゲーテアナム

バーゼル近郊のDornach村に存在する「ゲーテアナム」へ、ドイツの哲学者ルドルフ・シュタイナーが設計した建築物で、第一ゲーテアナムは火災で焼失し、現在はRC造で建てられた第二ゲーテアナム。シュタイナー創設のアントロポゾフィー（人智学）協会本部と、精神科学自由大学の本部が置かれている。

さよならパーティー

「ドイツ・オーストリア・スイスエコバウ視察ツアー 2023」6日間の全ての工程を終え、夕食を兼ねた「さよならパーティー」へ。視察ツアーお疲れ様でした。

まとめ

ドイツとオーストリアそしてスイス（ミネルギー）の建物を視察し感じたこと。13年前より視察するたびに性能だけでなく使用されている素材など環境の事・持続可能な社会の事など日本がいかにも遅れているかを改めて気付かされました。

昨今の資材高騰で、高くなるからとか、売れないからとか、いろいろと言いつけて「成長する資源」からますます遠ざかってしまうのではないかと懸念されます。

住宅ローンは35年～50年と長期にわたり支払いされていくのに建物の価値は、20数年で資産価値の無い建物となり住宅ローンだけが残っていく、どう考えてもおかしい日本。

又、住宅ローンを借りる為に生命保険（国信）にまで入って命がけでお金を借りて住宅を建てるのですから100年150年とメンテナンスが出来、使い続けられる資材を使ってPassive Houseやミネルギーの様な高性能な建物であるべきではないでしょうか!!

今回のツアーで大変お世話になったイケダコーポレーションの皆さん、案内・通訳の滝川薫さん、とても実になるツアーに参加させて頂きありがとうございました。



エコバウ建築ツアー 参加者アンケート

エコバウツアーの良さは、参加をしてみて感じる人が多いのですが、スイスやドイツ国民のエコロジーやエネルギーについての考え方から価値観、職業観などは、聞いて、観て、そしてやはり肌で触れるものや視覚で感じるもの、又農村地帯の風景や旧市街地の歴史的な建物からは地域特有の風土や固有の文化も感じることができることです。私の目的の一つは、建築視察と木造会社の見学であり、木造ビルの先進国のスイス、オーストリアでの木造ビルの見学や、それらを担う設計事務所や地元の製材所や木造会社の見学などをさせてもらい、地域で廻る経済（サーキュラーエコノミー）を実際に理解することが出来ました。

ツアーの楽しみは、多いのですが、見慣れぬ風景や、街並を散策したり、又郷土色豊かな食事と本場のビールやワインをいただくのもツアーの楽しみの一つです。そして、それらを共に過ごす仲間たちが、一堂に集まり、情報交換をしたりとすぐに打ち解けて帰国する時には、「同じ釜の飯」の同志となって、再会を誓ったりと新しい友人たちが増え続けています。

エコバウ建築ツアーには3度続けて参加していますが、次は社内の若い人達に参加を促しています。

～中略～

ツアーの楽しい思い出は、その場限りではなく、一緒に参加したメンバーの人たちとの帰国後の交流も含めて、刺激を受け続けていることにあります。

最後にこのツアーを企画していただいているイケダコーポレーションの皆様、ツアー先での快くお迎えくださる皆様、そしてそれらをコーディネートしてくださっているツアーコーディネーターの滝川さん。彼女の豊富な知識と経験によるものがこのツアーの魅力でもあります。このツアーでの得ることの多さに感謝しています。このツアー後に、友人たちを囲んでエコバウツアーの報告会を開催しています。

(竹内様／京都府)

環境に対する考え方の日本との違いを知りました。暖かいだけでなく、建築に使う素材がどんな過程で作られるかまで考えていました。自国が持っている資源の価値を国民がよくわかっていて、そのうえで上手く使いこなしているところはとても参考になって、日本でも真似ができればと思いました。

通訳の滝川さんは、通訳がわかりやすいだけでなく、バスの中でのお話もとても勉強になりました。やっぱり現地でないと感じられないことがまだまだあると感じました。

(野澤様／大阪府)

参加目的を達成することができただけでなく、貴重な現地での体験を通じ大きな財産となりました。また同様の価値観を持った参加者との意見交換、情報交換ができネットワークが広がりました。イケダコーポレーションのスタッフ様、添乗員様、通訳の滝川様にとても感謝しています。宿泊先については、可能であれば歴史的な建物、又は旧市街の立地（少ない時間で街歩きが出来るよう）、ツアーの内容に乗じた宿泊先であればなお良いかと思います。

(成松様／愛媛県)



Pickup!

自然派家づくりの

こだわりサーチ!



Differentiation search for Natural House!

有限会社アーキテクト工房 pure / 愛媛県

今回のエコバウ建築ツアーにも参加して頂き、また社長の高岡様にはツアーコラムを寄稿頂いたアーキテクト工房 pure 様。住まい手の為の「真の快適」を求め、ドイツ基準のパッシブハウスを初めデザイン+高性能+自然素材を活用した家づくりを手掛けている。また、精度の高い現場施工でも知られ、地域工務店による省エネ・高性能住宅建設の足掛かりとしての役割も担っている。その他、高性能住宅の普及活動にも力を入れ、全国の志を共にする工務店有志でつくる「House de Organic (ハウスデオーガニック)」代表、(一社)パッシブハウスジャパン理事を務めている。最近では、木繊維断熱材シュタイコzell (吹き込み)を自社施工できる体制を整えるなど、環境負荷を抑えた家づくりを益々進化させている。

D 有限会社アーキテクト工房 pure
A 〒791-0243
T 愛媛県松山市平井町甲3-1
A <https://studiopure.jp/>



お知らせ

エコバウ建築ツアー2024開催決定!

ドイツ・オーストリア・スイス



第27回 エコバウ建築ツアー2024



詳細はこちら



今年で27回目を向かえるエコバウ建築ツアーの開催が決まりました。今年もドイツをはじめ、省エネと美しい木造建築で有名なフォアアールベルク州を訪れ、持続可能な木と土で建てられた最新のエコ建築を数多く視察して頂きます。風景に溶け込んだ美しい木造建築や、製造～廃棄までのCO2排出を考えエンボディカーボンの最小化を目指したスイスの最新省エネ建築の視察など盛り沢山の内容を企画しています。是非ご参加ください!



第27回 エコバウ建築ツアー2024 スケジュール

日程/都市	行き先
10月27日(日) ・ミュンヘン	出国 到着後 ウェルカムパーティ
10月28日(月) ・ミュンヘン	●STEICO社 木繊維断熱材と施工見学
10月29日(火) ・ロイテ村 ・ベツァウ村	●省エネ木造建築 美しい風景 フォアアールベルク州をヘルマン・カウフマン氏と ●若手建築家の施工案件
10月30日(水) ・ザル村 ・ヴィンター ・トゥール市	●東スイス 設備に頼らないローテク木造建築 ●サーキュラー建築 建材のリユース、環境負荷を最小化する
10月31日(木) ・ズールゼー市 ・シュタイン村	●木造ZEMネルギー・P・エコ認証と SNBSプラチナ認証取得 ●最先端の木造技術。パネル・ユニット工場訪問
11月1日(金) ・アーラウ地方 ・アルシュヴィル村	●スイス漆喰 施工案件を見学 ●土・紙・木の木造建築。 版築アーティストのマルティン・ラオホ氏とのコラボ
11月2日(土) ・ヴァーベルン村 ・ヘルン市	●古民家のZEB改修、8世帯住宅へ。 ●チョコレート工場から集合住宅への改修 ●ホテルでさよならパーティ
11月3日(日)	出国 / 4日(月) 帰国

※視察内容は変更になる場合がございます。

お知らせ

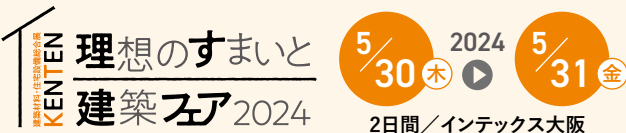
オガファーザー施工技術講習会



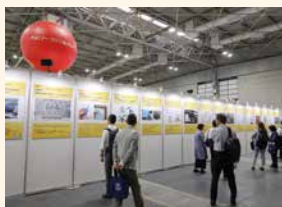
オガファーザーの施工の技術を磨く! 施工講習会を開催致します。施工だけでは無く、なぜ紙クロスを使用するのか? 自然素材で安心・安全な仕上げは何か? を分かりやすくお伝えします。差別化にも繋がるオガファーザー紙クロス施工技術を身につけませんか?



理想の住まいと建築フェア2024/KENTEN



西日本最大規模の建築材料・住宅設備の専門見本市「理想の住まいと建築フェア」に出展します。省エネ・環境負荷低減にも繋がる木繊維断熱材シュタイコを展示します。夏の猛暑、多湿な日本の環境にも適した木繊維断熱材を是非、見て・触れて・感じてください。



第26回 リフォーム産業フェア 中古住宅リノベ&買取再販フェア



日本最大規模となるリフォーム業専門の総合展示会に出展します。断熱改修で住宅の性能を高めていく動きの中、熱貫流率では測れない木繊維断熱材の特性を分かりやすくお伝えし、シュタイコを使用した戸建て・マンションでの改修事例をご紹介します。この機会に是非ご来場ください。



リボス自然塗料 定価改定のご案内
5月1日よりリボス自然塗料の定価が変わります。詳しい内容や5月からの新定価表をご希望の方は当社HPよりお問い合わせください。



ひとと環境にやさしい住まいづくり
株式会社イケダコーポレーション

ご注文・カタログのダウンロードはWEBから



SNSで施工事例・イベント情報など更新しています



ご登録
お願
い
し
ま
す